

平成23年度 第1回芦屋市立中学校の昼食の在り方を考える懇話会 会議録

日時 平成23年9月5日(月) 13:30~16:00

場所 芦屋市役所北館4階 教育委員会室

出席者

委員長 河合 優年
副委員長 増澤 康男
委員 笠原 清次
長谷川 則光
平岡 栄
氏原 佳代子
中塚 巳津子
堂脇 里真
入江 祝栄
片岡 登志子

教育委員会事務局

福岡 憲助
波多野 正和
丹下 秀夫
北野 章
西尾 節子
俵原 正仁
長谷川 真弓

会議の公表 ■公開

傍聴者数 7人

1 議 事

「中学校での昼食の実態」について

「食」について考えていること

2 内 容

＝開 会＝

教育長/福岡: 芦屋市立中学校の生徒が心身ともに健康で充実した学校生活を送る上で、中学校における望ましい昼食の在り方について、広く意見を聴き、その方向性を研究するために、この会を設置しました。

明日の芦屋の中学生のためにも、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

＝議 事＝

(1) 設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員長・副委員長の選出
委員長に河合委員，副委員長に増澤委員を選出

(2) 事務局より、資料の確認の後、資料に沿って趣旨説明をおこなう

資料1 芦屋市立中学校の昼食の在り方を考える懇話会設置要綱

資料2 学校給食法(抜粋)

資料3 食に関する指導の手引き(平成22年3月文科省)より

資料4 芦屋市における肥満率・体力テストの結果

資料5 中学生の食事に関するアンケート(平成23年2月)

資料6 公立小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校における給食実施状況

資料7 神戸新聞記事(5/15.16)「中学校の給食、いる?いない?上・下」

(3) 中学校での昼食の実態について

「食」について考えていること

堂脇委員：弁当販売やパン販売には、いつも同じ子が利用しているのですか？また、3校とも弁当は同じ値段なのでしょうか？

長谷川委員：精道中学校と山手中学校では、400円の弁当を販売しています。潮見中学校では400円の弁当と少し小さめの350円の弁当を販売しています。

潮見中学校では、弁当の注文はほとんど1桁です。献立にもよりますが、少ないときは、全校で1つや2つの時さえあります。こんな状態ですので、いつも同じ子が弁当を買っていると思えません。

氏原委員：学校でのパンが売切れてしまったら、外に買いに行っているということを耳にしましたが、本当ですか？

平岡委員：業者のほうもどれだけ売れるか数が読めないで、精道中学校では、おっしゃるとおりパンが足りなくなる時もあります。実際、そんな時は、外出許可書を持って、外のパン屋に買いに行くこともあります。パンを買って帰ってきたら、担任が確認をするようになっています。時には、担当の先生がついていくこともありますよ。

河合委員長：実際に何がどんなふうに行っているのか知りたいことなどを資料から少し離れてもいいですので、出してください。次回以降の懇話会での話し合いのベースになるように、「食」について、お一人ずつご意見をお願いします。

片岡委員：3校で売っているパンは、どんなパンですか。菓子パンが多いのか調理パンが多いのか。どちらでしょうか？調理パンが足りず、菓子パンで我慢するようなことはありませんか？

データによると7%ほどの子が、朝食を食べていないようですが、そのような子が

菓子パンにしかありつけないことはありませんか？栄養のバランスのことを考えてどうかと思います。子どもたちの昼からの授業の様子はどうでしょうか。

長谷川委員：潮中の場合ですが、実は、子どもの実態は大人の考えとは逆で、菓子パンと調理パンでは実は菓子パンのほうを好むようです。調理パンのほうが残っているのが、現状です。業者は、パンの売れ行きを見て、次の日の数を決めているようですが。ちなみに、パンの購入は週末になるほど多くなってきています。私が、昼からの授業の様子を見る限りでは、パンだから特に調子が悪いなどというのはなさそうです。

入江委員：市内では、お金だけ渡して済ませているという家庭があると聞いたことがあります。ちゃんとお弁当を持ってこられない子は、友だちや先生には、分からないように隠していることも多く、子どもたちのことが見えているようでも、実際は、学校だけでは対応できないことも多いのではないのでしょうか。

このような状況を聞くと、給食実施になったとしても給食費を払えない家庭も出てくるでしょうが、そのような場合、そのような家庭には市は給食費を免除できたりするのでしょうか？

事務局/北野：未納問題については、一緒に考えていかなければいけません。設備の面も含め、現実的な問題を除いて、昼食の在り方の論議はできないと考えています。

河合委員長：「子ども」という視点を忘れてはいけないと思います。場合によっては、大人が痛みを伴わなければいけないこともあるでしょう。この懇話会では、いろいろな思いを出し合って、全国が「芦屋をモデルに」というようなものを創り上げてほしい。

堂脇委員：中学生になれば、自分でお弁当などを作っていくことができるのではないのでしょうか。作ってもらっただけでなく、自分で作る。このことは、いい経験になると思います。食べていける智恵を考えてもいいのではないのでしょうか。そういう指導を続けていく。給食が実施されたとしても、「一食ぶん食べられるようになっただけ」で、けっきょく本質的な問題は残ったままになると思います。「芦屋らしさ」は、弁当であれ、給食であれ、もっと出してはどうですか。芦屋ならではのシステムを創っていくように。小学校の給食で、協調性等学んできたと思いますので、中学校では、その上で「食」について考えていく機会とすればいいと思います。

河合委員長：両論、併記であってもいいと思います。第1回目ですし、これが結論といったものではなく、率直な意見をお願いします。芦屋は、中学校3校というお互いの顔が見えるとてもいい規模ですから、その利点を生かして、先生方、PTA、地域のみなさんの意見を出していきましょう。

中塚委員：中2の息子がいます。夫の弁当のついでに息子の弁当も作っていますので、学校ではパンも買ったことはありません。ある時、「もし、私が体調を崩してお弁当を作れなくなったら、どうする？」と聞いてみたんですけど、「夏休みの家庭科の宿

題でつくったものなら作れるので、それを入れるからいい。」と言われました。子どもは、小学校の給食のおかげで、好き嫌いもなくなったようです。高学年になったころ、「嫌いなものを残せば、お腹が減るから、嫌いなものも食べるようになった。」と書いていました。ただ、「中学校も給食がいいか。」と聞けば、「給食は小学校で卒業した。」と書いています。給食は時間がとられるのもいやなようです。

後、別件ですが、7月23日の精小のコミスク夏祭りで、子どもから「給食がいいか、弁当がいいか」のアンケートをとっていたと聞きました。「弁当」と答えなかった子には、氏名・住所など署名を求めていますし、実際書いていた子もいたようです。

河合委員長：今日は第1回目ということもあって言うのですが、私たちが気をつけていかなければいけないのは、子どもを巻き込んではいけないということです。当事者は、子どもたちですが、大人が子どもを試してはいけない。子どもの視点で考えていくことは大切ですが、どっち派とは聞きたくありません。子どもに説明できる資料はここで集めていかなければいけないのですが。

氏原委員：あらかじめ、コンビニなどでパンや弁当を買ってくる子もいると思いますが、最近のパンはお菓子かパンか分からないものも多いですね。パンとお菓子の線引きとかはどうなっているのですか？

平岡委員：精道中学校では、登校途中にコンビニなどによってパンなどを買うことは禁止しています。登校途中ではなく、前もって買っているものを持ってくることは、かまいませんが、そのときは、学校で販売しているような種類のパンを持ってくるように指導しています。

私自身、長く教職についていますが、ここまでやってこられたのは、家庭の力、保護者の力、地域の力の支えがあってこそだと思っています。

精道中学校のお昼の時間は、12:40に授業が終わり、10分間の準備時間の後、12:50にチャイムが鳴り、クラス全員がそろって「いただきます」をします。15分たつと「ごちそうさま」をして、13:05よりその後20分間の昼休みです。昼休みには、子どもたちといっしょに遊んでいる教諭の姿も見られ、1日のうちでもほのぼのとしたいい時間だと感じています。家庭科を通しては、子ども自身に「食べる力、作る力」をつけていきたいと思っています。高校や大学になると、学食で食べることも多くなるので、中学校の間にしっかりと「選ぶ力」「作る力」を育てていきたいのです。3年生の最後のお弁当の時間には、一人ひとりに紙を渡して、感謝の気持ちを書くようにしています。個人的には、なんでも外食産業にまかせる風潮には危機感を感じています。

河合委員長：もともと「食育＝生きる力」ということです。妻が先になくなった場合の夫の死亡率は、その逆よりも高いというデータがあります。つまり、自立する力が大切ということかもしれません。

長谷川委員：卒業の際、親への感謝を述べる時、3年間、お弁当をつくってくれたことに対する感謝を述べる子が多いようです。潮見中学校の場合、経済的にしんどい家

庭も多いです。だからこそ、弁当率も高いのでしょう。自分で弁当を作ってきている子もいるようです。小学校の給食は実際においしいし、給食を否定するしないうんぬんではなく、発達段階の中でどうあるべきか考えていきたいと思っています。中学生には、まわりに支えられながらも、強くなってほしい。与えられる食育ではなく、自分でつくっていく食育を。福祉的な意味合いを給食に求めすぎると、せつかくの成長のチャンスを奪っていくことになるのではないのでしょうか。それにしても、今まで30数年間現場にいますが、中学生からも親からも給食を求める声は一度も聞いたことがないのに、ここ1、2年の間に急に声が上がってきたことに驚いています。

河合委員長：いろいろな立場、いろいろな人がいます。たとえ一人でも、それは例外ではありません。本気で議論して、どんな結果になったとしても、その結果については責任を持って進めていかなければいけないですね。

笠原委員：毎年おこなっている給食週間では、「芦屋の給食が戦前からスタートしたこと」「それは、保護者が学校に集まって交代でつくっていたこと」などを全校の子どもたちに話しています。このことから、芦屋市は、「食を大切にしてきた歴史がある」ということがわかります。昔から食を大切にしてきた芦屋なのに、今まで中学校給食がなかったことには、何か意味があるのかもしれませんが。小学校の子どもたちに対する視点と中学校の子どもたちに対する視点は違うかもしれない。文化的背景も大切にしたいと考えています。

増澤副委員長：給食か弁当か、結論を出すのは難しい。当事者がどのように考えるかを大切にしたいです。今回の資料（「食に関する指導の手引き」平成22年3月文科省）にのっているものは、文科省が給食を進めようという意識でつくられたものです。食育基本法が別の形でおりにてきたもので、もともと、学校給食法と食育基本法とは、違うものです。給食があった方が食育を推進しやすいなど、つながることもありますが、基本的には違います。選択の一つに給食はあるのですが、決してイコールではありません。白紙の状態から考えてください。学校給食法を見るのなら、第2条に注目するといいです。ここが平成20年の改正で一番変更されている部分です。食育とは、「食べ物を大事にする」ということで、言い換えれば、最近の社会は「食べ物を大事にしていけない」ということです。だからこそ、食育をすすめていかなければいけません。

（4）アンケートについて

事務局/北野：中学生 1500名 保護者 1400～1450名 中学校教員 70～80名 市民 1000名にアンケートをとります。市民のアンケートは、年代別にとっていきます。アンケートは、業者に委託して単純集計及びクロス集計を行う予定です。

河合委員長：この懇話会がアンケートをとるという形なのか、市（教育委員会）がアンケートを出すという形をとるのか、どちらですか。

事務局/北野：市が出したアンケートを資料の一つとして懇話会で検討するという形に

なります。

笠原委員：「『給食』の課題は何だと思えますか。」という問いの選択肢2「生徒が給食当番をまじめにやらなかったり、給食にいたずらをしたりすることがある」の部分の「給食にいたずら…」というところはいりますか？それと、「中学校で給食実施するには～財源確保が課題となりますが」の問いの選択肢1「他市と比べ充実した小学校給食を見直すことで」の部分だけ見れば、小学校の給食を見直せば、即、中学校給食が実施できると勘違いする人もいるかもしれないですね。

事務局/北野：「給食にいたずら」という表記は、他の市の事例として聞いたことがあるので、今回のアンケートにも反映させることにしています。

片岡委員：（「小学校の給食を見直せば」を受けて）経費のことを言い過ぎると、給食に対して後ろ向きになります。私には、この問い自体が、給食に対して反対している感じに伝わってきます。抽象的な表現はやめて、議会の答弁書にあるように具体的な数字で表してほしいです。他市に誇れるおいしい小学校の給食を中学校にも実施してほしいと個人的に思っていますが、多くの人が望む中学校給食の実施につながるようなアンケートにしてほしいです。

河合委員長：2つの問いは再検討する必要がありますね。

入江委員：中学校では、給食にしてほしいという保護者の声もよく聞くのですが、多くの方は小学校のおいしい給食が中学校でもできるということで、賛成していると思います。他の形で給食が実施されるのであれば、賛成者は減るかもしれません。

事務局/北野：アンケートの文面だけでは、あまり詳しく説明することもできませんが、給食の実施については、いろいろな可能性があることも知ってほしいと思っています。

長谷川委員：家庭からの弁当と給食の選択方式の問いは、ややこしいのではないですか？聞かれていることが分かりにくいように思えます。

片岡委員：姫路市は、選択方式、デリバリー給食で行っていますが、地域ごとに毎年業者が代わっていったそうです。そのせいか、評判もあまりよくありません。

増澤副委員長：「中学校で給食を実施するほうがよいですか」という問いが先にあるが、ここでいう「給食」とはどの型か、何を指しているのかがわかりにくいです。また、「他市と比べて～」の部分は、表現や選択肢の順番を考えたほうが良いと思います。

河合委員長：参考として書かれている「実施方法」については、もう少ししていねいに書かれているほうが良いですね。また、これは、アンケートの最後につけるのではなく、最初につけたほうが良いと思います。

事務局/北野：指摘のありました3点につきましては、事務局で再検討し、修正したも

のを各委員に送付させていただきます。

(5) 今後の日程について

事務局/北野：第2回の予定は、11月にしています。このときには、アンケートの結果を単純集計したものを資料として提示する予定です。第3回は1月、第4回は2月に予定しています。また、第2回と第3回の間に関東地区の視察も考えています。視察場所については、第2回の懇話会で提案します。

=閉 会=